

「中央アジア+日本」対話・第8回東京対話
山田外務大臣政務官 基調スピーチ

1 はじめに

「中央アジア+日本」第8回東京対話の開催に当たり、中央アジア各国からの参加者の皆様を心から歓迎します。また、御出席を御快諾頂いた日本側参加者の皆様にも深く感謝申し上げます。

本日は、我が国の学術界や経済界において中央アジアにご縁の深い方々や、学生はじめ若い世代の方々にも多数出席いただいております。これは、日本と中央アジアとの協力が幅広い分野で着実に進展していることの証左であると思えます。

2 日本の中央アジア外交

ご承知のとおり、昨年10月、安倍総理は日本の総理大臣として歴史上初めて中央アジア5カ国を歴訪しました。ウズベキスタン、カザフスタンには小泉総理の訪問以来9年ぶりの訪問、トルクメニスタン、タジキスタン、キルギスについては日本の総理として初めての訪問となりました。

安倍総理は訪問された各国において、「二国間関係の抜本的強化」、「地域共通の課題への関与」、「グローバルな舞台での一層の協力」という、日本の対中央アジア外交の3本柱を打ち出しました。その結果、5カ国全てから、中央アジアの「開かれ、安定し、自立的な発展」を支え、地域・国際の平和と安定に寄与する日本外交への歓迎が示されました。

また、今般の中央アジア訪問には、民間企業等合計50団体が同行し、トルクメニスタン、ウズベキスタン、カザフスタンではビジネス・フォーラムを開催しました。その結果、5カ国を通じて官民併せて合計87件の文書が署名され、今後3兆円を超えるビジネス・チャンスを生み出す旨表明しました。

現在、これらの合意事項のフォローアップをしていくことが重要となっております。本日の会合も日本と中央アジア諸国との関係強化に向けた重要な機会として位置づけられております。

3 「中央アジア+日本」対話の意義

我が国は、中央アジア地域の発展には域内協力の促進が不可欠との観点から、2004年から「中央アジア+日本」対話を立ち上げ、地域協力の「触媒」の役割を果たしてきました。

「中央アジア+日本」対話は、中央アジア5カ国がフルメンバーとして参加する国際的な枠組みとしては世界的にもまれに見る歴史と実績を誇り、安倍総理の中央アジア訪問においても、先に触れた日本の対中央アジア外交3本柱の一つである、「地域共通の課題への関与」という形で改めて日本の立場を明らかにしております。経済格差の拡大等、中央アジア諸国間の関係は複雑な側面もありますが、地域協力の重要性についての認識は着実に共有されつつあると確信致しております。

この「中央アジア+日本」対話、近年では単なる対話にとどまらず、実践的協力を目指しております。同対話10周年を記念した2014年の第5回外相会合では、「次の10年」への展望として、対話の枠組みを、単なる対話ではなく、実践的な協力を推進する場にしていくことが確認されました。そして、昨年11月にトルクメニスタンにて行われた第10回高級実務者会合において、実践的協力の新たな優先的分野として運輸・物流分野に取り組んでいくことで一致しました。

運輸・物流分野での障害解消や効率性向上は、グローバルな運輸・流通ルートへの統合を通じて、中央アジア経済の競争力強化や、域内外との貿易拡大をもたらす、ひいては経済成長の加速化や地域の繁栄につながる極めて重要なテーマです。

本日の東京対話では、中央アジア各国、及び日本の有識者の皆様より、中央アジアにおける運輸・物流分野での課題や問題点について議論していただき、地域共通の課題である同分野においていかなる協力が可能かにつき、大所高所よりのご意見を伺えればと思えます。本日もご参加されている皆様におかれても、様々な観点からの御助言や御協力を頂ければ幸いです。

5 結び

本年は、中央アジア諸国が旧ソ連から独立して25周年を迎えます。運輸・物流分野をはじめとする様々な実務的分野において、大きな節目を迎えた日本と中央アジア地域との関係が今後益々発展することを祈念しつつ、私からの挨拶とさせていただきます。

御静聴ありがとうございました。

(了)